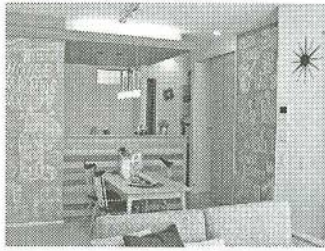


「チョークアート」を楽しめる住宅販売

木目パネルでカフェの雰囲気

ボラスマイホームプラザ（埼玉県さいたま市、中内啓夫代表取締役）はこのほど、黒板クロス（サンゲツ製）を玄関エントランスやダイニングに採用した「チョークアートを楽しめる住宅」「エクリアル西大宮」

面積101・55平方メートル、建物面積96・26平方メートル。現在8号棟（土地



3880万円）をモデルハウスとして公開中。写真。17年2月中旬に全棟完成予定。

エクリアル西大宮は、営業担当者からの①家族間でのコミュニケーションに使える黒板かホワイトボード②大きな間口の窓③キッチン周りの木質化④の要望に応えたデ

ザインを採用。設計デザインを担当した設計課企画設計係の高橋健太郎係長は①について「結婚式やセレモニーで使われる『ウェルカムボード』をイメージした」という。

そのためまず、玄関を入ってすぐ横の壁か正面の、入り口から見える位置に黒板クロスを採用し、チョークアートが楽しめる仕様にした。家族の記念日に特別なメッセージや絵を描いたりできると、自由なアイデア

で使い方が広がりそう。ダイニングにも同クロス採用しており、子どもが絵を描いたり、家族間での連絡メモに使え

る。一部の住戸ではスタディスペースに同クロスを採用しており、子どもに勉強を教える時に黒板として使える。クロスの色はライトブルー系、ライトグレー系、エンジン系を採用。

「エピソード」(YKKAP製)を採用。内側(室内)には「木」の味わいのある木質調の色、外側は外壁のタイル模様

に合わせた黒色になっている。主張のあるサッシになっているが、木質にこだわったキッチン周りのデザインとの相性が良さそう。③ではキッチンカウンター下の腰壁に「ウエスタンレッドシダー」(米スギ)のパネルを採用。パネルごとの色の濃淡が楽しめる仕上げとなっている。

2階の各居室のすべてにウォークインクローゼットを備える点も特徴。クローゼットの中に個性的な柄のクロスを採用するなど、従来にないアイデアを盛り込んだ。

モデルハウスの黒板クロスにはチョークアートの大地由希子氏に依頼したアート作品が描かれている。大地氏は「淡い色合いのクロスだが発色が良く、白のチョークで書いても見やすい」と感想を述べている。